

1 hMGで卵巣を刺激する

□ 卵巣の反応を期待できる場合は月経5日目からクロミフェンを5日間内服します
[/ ~]

- 月経7~10日目から超音波検査を行い発育卵胞を確認します
- 卵胞径が13mmを超えていたらhMG [/ ~] 単位を自己注射します
- 数日ごとに超音波検査を行い卵胞径が16mmを超えるまでhMGを継続します

3 hCGで卵を成熟させる

- 朝に最後のGnRHアンタゴニストを使います
- 21:00 (時間厳守) にオビドレルを自己注射します
- プセレリンを両鼻に1回ずつ噴霧します

5 胚移植

- 食事を普通にとり、ナプキン、生理用ショーツを持参ください
- 【手順】 胚培養士の説明→着替え→胚移植→希望があれば病室で静養
- ※ 胚移植後に月経様の出血があっても着床していることがあるので、薬を使い続けて予定どおりに来院してください

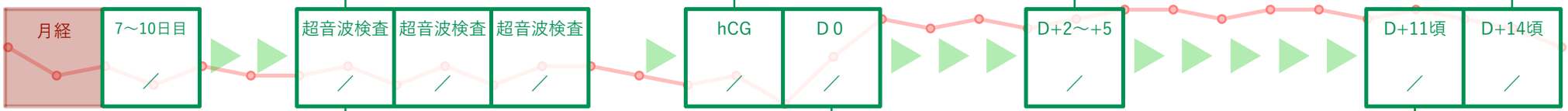
7 妊娠判定

- 採血して妊娠を判定します
- プロゲステンを終了します

クロミフェン

hMG

hCG
GnRHアゴニスト



□ 月・水・木：14:00来院
□ 火・金・土：11:30来院

※ 受付終了1時間以上前に来院ください

[保険 / 自費]
 ※ 今回の治療を計画した時点で43歳未満であれば保険適用です (前回保険適用で全胚凍結した後の初回の凍結胚移植を除きます)。
 ※ 保険適用の治療周期では先進医療ではない保険適用外の検査や治療 (PRP療法、PGT、タクロリムス療法など) を併用できません。

GnRHアンタゴニスト

- 卵胞径が14mmを超えたらGnRHアンタゴニストを毎日午前中に使って排卵を抑制します
- 自費の場合：レルミナ内服
- 保険の場合：ガニレスト皮下注
- hCG投与日の朝まで継続します

[/ ~ /]

プロゲステン

- 朝食を軽くとり、ナプキン、生理用ショーツを持参し、8:00に入院入口のインターホンで来院を伝えて2階ナースステーションにお越しください
- 【手順】 着替え→鎮痛坐剤を挿入→採血と点滴→採卵→病室で静養→昼頃に胚培養士が説明
- 夜からプロゲステンを使います
- ルトラール錠 (1日2回朝夕内服)
- カテーテルが入りづらい方は頸管拡張を行います

- 採血して着床を確認します

自然周期法

2 GnRHアンタゴニストで排卵を抑制する

4 採卵・採精

6 着床確認

